

2016年度（平成28年度）  
第1回福山市廃棄物減量等推進審議会 議事概要

2016年（平成28年）9月7日（水）13時30分～14時40分  
福山市役所本庁舎6階60会議室

出席委員数（13名）

委員：三好良治 委員，藤井智恵子 委員，瀬尾敏治 委員，吉岡睦子 委員，瀬戸田誠 委員，萩田和照 委員，佐々木昭彦 委員，前田美都子 委員，川久保和雄 委員，鶴崎健一 委員，羽田裕 委員，品川朋之 委員，佐藤彰三 委員

事務局：経済環境局長，環境部長，環境総務課長，環境保全課長，廃棄物対策課長，廃棄物対策課産業廃棄物担当課長，環境啓発課長，南部環境センター所長，南部環境センタークリーンセンター担当課長，西部環境センター所長，北部環境センター所長，北部環境センター新市業務担当課長，東部環境センター所長，環境総務課職員

【承認・報告について】

事務局から，会議は公開で行うこととし，傍聴人は2名であることが報告された。また，委員17名中13名の出席により定足数を満たしていることが確認された。

【会長・副会長の選任について】

承認事項	承認内容
会長・副会長の選任	福山市廃棄物の処理及び再生利用等に関する条例施行規則第5条第2項により会長は鶴崎委員，副会長は羽田委員が選任された。

【議事（1）2015年度（平成27年度）ごみ排出量等について】

事務局から資料1による説明後，質疑応答がされた。

質疑・提案（委員）	応答（事務局）
家庭系ごみは減少傾向だが，ここ数年事業系ごみは増加傾向にある。その原因は。	景気の緩やかな回復基調により事業活動が活発化しており，事業所から排出されるごみが増加していると考えられる。
現在検討している事業系ごみ減量の方策は何かあるか。	これまでに多量排出事業者とする一定規模以上の事業者を対象に立入調査をするとともに，減量計画書の作成・提出を求めている。今後は対象範囲を拡大する計画である。

【議事（２）２０１６年度（平成２８年度）の主な取組について】

事務局から資料 1 及び福山市一般廃棄物処理基本計画〔概要版〕による説明後、質疑応答がされた。

質 疑・提 案（委員）	応 答（事務局）
<p>「ふくやま環境大学事業」について、フォローアップ講座の開催など良い取組だと感じている。今後はどのように修了生等リーダーの活躍・活動の場を提供していくかが課題と考えるが何か方策はあるか。</p>	<p>本事業は今年で４年目を迎えている。３年間で約８０名の修了生がいるが地域で活動されている修了生は少ない状況である。</p> <p>今後は修了生同士でペアを組んで、市職員と一緒に環境出前講座へ出向くなどの仕組み作りを検討している。</p>
<p>取組の推進をお願いしたい。</p>	<p>承知した。</p>
<p>「紙類の更なる資源化の推進」について、可燃ごみとして出されている中にどのくらいリサイクルできる紙ごみが含まれているか推計する必要があると思うのでお願いしたい。活動の指標となる大枠の指標・目標値がある中での活動がPDCAサイクルの循環にも繋がる。</p>	<p>リサイクルできる紙ごみの量の把握は必要と考えている。受入施設等と連携を取り、ごみ組成調査等を実施していきたい。</p> <p>現状の取組としてはこれまで同様、市が直接回収するのではなく、集団資源回収の推進により協働のまちづくりを進めていきたい。</p>
<p>福山市議会でのペーパーレスの取組の進捗状況は。</p>	<p>現在、仕組み作りを検討している。また、９月議会からは市管理職に対しては資料全てを配布するのではなく、必要資料のみをデータ上からプリントアウトして持参するなどの取組を行っている。</p> <p>順次ペーパーレスに向けて取り組んでいきたい。</p>
<p>ペーパーレス化の取組は、紙ごみの資源化と深く係るので推進をお願いしたい。</p>	<p>承知した。</p>
<p>リサイクル率はRDF化量を除くと12.6%と依然低い状況にある。リサイクル率向上に向けて、全国的な取組の中で参考となるものがあれば前向きに導入等検討してもらいたい。</p>	<p>本市はRDF化によりリサイクル率向上に取り組んでいる。</p> <p>今後は他市町事例を参考とし、処理方式も含めた有効な資源化方法を検討していきたい。</p>
<p>「紙類の更なる資源化の推進」について、未実施団体への個別支援とある。実施団体数など、数値目標を立てているのか。</p>	<p>目標値は定めていない。実施団体数は増加しているが回収量は減少している。実施団体数を増やすこととともに、その場に人が集まる工夫を考えたい。</p> <p>回収量の減少の理由の一つは機動力の低下が考えられる。活動場所・日時等を市で集約し市ホームページで情報発信するなどしていきたい。</p>
<p>資源回収する際にアルミ缶はどのように出せ</p>	<p>選別工場において潰して出した場合、成形が</p>

ばよいのか。潰さないとかなりかさばる。	困難となることから、そのままをお願いしたい。
回収車両がない団体に対して貸出し用車両を各支所へ配備するなど、市からのサポートはできないか。	自主自立をお願いしたい。現状の取組を促進させるため、出前講座等において先進的な取組事例を紹介するなど情報提供に努める。
事例紹介として、柳津学区では約20年前から資源回収を実施している。関連団体と協力し学区内のごみステーションにちらしを貼付するなどし、地域住民の参加、意識向上に努めてきた。現在は住民意識も向上しお互いに実施を声かけするまでに至っている。	
資源回収についてはいろんな問題点や成功例がある。情報を集約し実施についてのQ&Aを作成してほしい。	広く発信していけるよう、事例集やQ&Aの作成を検討していく。

【議事（3）その他】

質 疑・提 案（委員）	応 答（事務局）
ごみステーションの設置について、利用者により設置・管理することとされている。現状では老朽化や破損が著しいものもある。市として修繕対応などしてもらえないか。	市内には7,000箇所を超えるステーションがあり、地域での設置・管理をお願いしている。これら全てについて市が支援する制度はない。 ごみ減量、リサイクル推進、資源回収補助金制度を実施しているので、それらの取組や制度を利用し地域で対応してほしい。